

にじいろつうしん

Vol.1

2024年4月発行 文責 にじいろこどもクリニック 院長 相澤知美

桜も咲き、暖かい季節となりました。インフルエンザの流行が落ち着き感染症は春休み頃から減少してきております。

今年の4月で「にじいろこどもクリニック」も一周年となりました。今後も患者様や親御さんに満足いただける医療を提供できるように努力したいと思っております。

Instagramには1週間の感染症発生状況を載せておりますが、小児科医療や育児に関する情報を「にじいろつうしん」という形で不定期で発信していこうと思っております。是非、参考にさせていただけると嬉しいです。

05 2024
MAY



MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
		1 11時 まで	2	3 祝	4 祝	5 祝
6 振休	7	8 11時 まで	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22 11時 まで	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

春の学校健診、保育園健診のため、1日、8日、22日は11時（10時半予約）までです。

2024年4月からの新しいワクチン

5種混合ワクチン

これまでの4種混合とヒブを混合したワクチンです。ジフテリア、破傷風、百日咳、ポリオ、インフルエンザ桿菌の予防接種です。

生後2か月から3～8週間隔で3回接種し、3回目から6～18ヶ月あけて4回目を接種します。

すでに、4種混合とヒブで接種を開始した方は、原則同じワクチンで4回目まで接種します。

15価肺炎球菌ワクチン

肺炎球菌は急性中耳炎、肺炎、髄膜炎などの感染症の原因となる菌ですが、90種類以上の「血清型」があります。このうち、これまでのワクチンは13種類の血清型に対応していましたが、更に2種類の血清型が追加となりました。

生後2か月から4週間隔で3回接種し、3回目から60日以上あけて、かつ1歳以上となったら4回目を接種します。

13価肺炎球菌ワクチンを接種していた方も、途中から15価へ切り替えることができます。

どちらも、皮下注射に加え、筋肉注射が可能です。海外では予防接種は筋肉注射が主流で国内でも近年筋肉注射の予防接種は増えてきました（コロナワクチン、子宮頸がんワクチンなど）。筋肉注射の方が接種部位の腫脹などの副作用が少ないです。

溶連菌感染症の合併症のお話

昨年より、全国的に溶連菌感染症が流行しています。溶連菌感染症の方には「2～3週間後にむくみや血尿を認めたら、尿検査をしに来てくださいね」とお伝えしています。これは、溶連菌感染後に稀ですが「急性糸球体腎炎」を発症することがあるからです。以前は感染した方全員に尿検査をしていましたが、発症率が非常に低くなったため、最近では症状がある方に尿検査をするという流れになっています。

喉の感染症なのに、なぜ腎臓に？と思う方もいると思います。これには「免疫」が関係しています。

溶連菌の「抗原」に、溶連菌をたおすために体で作られた「抗体」や「補体」が結合して「免疫複合体」というかたまりが血液中で作られます。それが、腎臓へ沈着するまで2～3週間かかるので、腎炎発症までに時間差が生まれます。

「血尿」（腎炎の血尿はコーラ色です）
「目のむくみ」「尿量の減少」など気になる症状がある場合は必ず受診してください。